

## ◆子育て支援団体へのヒアリング

### 1 実施概要

第三期日進市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、近年の子ども及び子育て家庭の変化や現状を把握することを目的に、日頃から子育て家庭に接し、子育てを支えている団体からヒアリングを行いました。

対象者・調査方法	児童クラブ、子育て総合支援センター、児童発達支援センター、認定こども園、保育園、子育て支援センター等の事業者（7団体） アンケート形式
実施期間	令和6年11月
ヒアリング内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶子どもに関して</li> <li>▶子育て家庭の変化に関して</li> <li>▶支援に関する困難なことなど</li> <li>▶子どもや子育て家庭に接する際に大切にしていること</li> <li>▶子どもや子育て世代に必要な支援に関して</li> <li>▶課題等</li> <li>▶関係機関の連携に関して</li> <li>▶市からの支援に関して</li> </ul>

### 2 ヒアリング結果（抜粋）

#### 問2 貴施設に通う子どもたちをみて、気になることはありますか。

- 特性のあるなしに関わらず、ストレスが溜まっている子が多いと思う。
- 忙しすぎて、子どもらしいストレスの解消ができていない。
- 学童保育に通いながらも習い事もやっている子が多く、在室中に疲労している姿がみられる。
- 通常学級の児童の中にも発達障害等があると思われる子どもが多くなった。
- 人や物事に対し関心がない子どもが増えているように思う。
- 長時間保育で過ごす子が増えている
- 体力の低下や怪我の多さを感じている。コロナ禍を経て外遊びや運動等の経験不足や、インターネット等が身近になり映像視聴の時間が増えた影響を強く思う。
- 同年代の友だちとトラブルが生じた際の解決能力が弱くなってきており、一方で自己主張が強く、コミュニケーション力が乏しくなってきたと感じる。
- 児童虐待など不適切な養育環境のお子さんもみえますので、生まれつきの発達の偏りなのか、それとも養育環境による影響なのかの判別は非常に難しいケースもありますが、虐待防止の取り組みも今後さらに重要になってくると思います。
- ファミサポの援助として、療育施設の送迎（年間約500件/3500件）が増加していることに加え、不登校児童の送迎の相談も増えている。
- ひとり親の場合、生活費を工面するためにどうしても仕事で忙しくなることから、こどもだ

けて過ごす時間が増え、寂しさを抱えている様子がかがえる。

問3 この5年間における、子育て家庭の変化はありますか。

- 余裕がない。
- 他人（他の家庭）との距離をおく保護者が増えている（無関心）
- 子どもに対してどこからが問題行動で躰の必要が出てくるかといったラインの差が家庭によって大きく違ってきていると感じる（極端に厳しい家庭、極端に甘い家庭）
- 共働き世帯が多いためか、親子の関係性が希薄になっているのではないか。
- 子育てに悩んでいる保護者が多い。
- 父親の子育てに参画する割合は高くなっている
- 産前産後等、サポートを必要としたい時期に祖父母に頼れない家庭が増加（遠方にいるという物理的な理由だけでなく、祖父母不在、片親、親子関係などの理由も多い）。

問4 日々お子さんや子育て世帯と関わっていて、どのようなもどかしさ、大変さ、困難さを感じますか。

- 大人も子どもも、価値観に違いがあり、いろいろな考え方がある。互いに理解するよう、理解してもらえよう努力が必要だが、負担軽減、効率重視の陰で、じっくり考えるよりも素早い、簡単な回答を求める風潮が強まっている気がする。
- 時代の変化にともなっているのか、子どもの課題や家庭の課題に対してどこまで踏み込んでよいか迷うことがある。
- 色々なお子さんや保護者がいる中で、短時間の接点では家庭の状況や事情を把握することが出来ない、又保護者にもご理解ご協力を得られない事にもどかしさを感じる。
- 保護者と子どもとの信頼関係が築けない事例がある
- 育児力の低下が心配されるものの、指摘されることに不慣れな親が多く、親自らが納得できるような伝え方が難しい。
- 子育て家庭の多様性や変化のスピードが速くなり、支援が追い付いていない。

問5 子ども・子育て家庭に関わる際に、大切にされていることを教えてください。

- 相手を理解すること、決めつけて否定したりしないこと。
- 起きた問題等は、後々のトラブル防止のためにもこと細かく保護者に報告する。
- 保護者との情報共有・意思疎通
- 母親（又は父親）の努力を認める
- 子ども発達支援センターでは、家族支援の柱として「ほめる子育て」を重視しています。保育士も、保護者のモデルとなるべく、療育の中で小さな「できたこと」をほめることをして

いきながら、保護者の皆さんが「ほめポイント」をたくさん見つけてほめる子育てを実践することで、親子ともに自己肯定感が向上できるように配慮しています。

○寄り添う姿勢と、丁寧な傾聴

問6 こどもや子育て世代に必要な支援は何だと思いますか。

○こども、子育て世代の不安や心配事に対し、答えを出すのではなく、気軽に相談にのってもらえる窓口。

○体験格差をなくす支援

○子育て世代同士でつながり、情報交換ができる場の提供

○安全かつ自由に遊ぶことのできる広場充実

○多様な子育てのあり方があることを受容する社会にしていくことだと感じています。換言すれば、それは「差別や偏見のない社会」の構築とも言えるかもしれません。

○こどもが安心して、こどもらしく自らを成長させることのできる居場所の確保

問7 貴団体が運営・活動を行っていくうえで課題はありますか。

○職員の確保、体制の安定。職員の資質向上。(この内容が大半)

○事業内容の周知、広報。

○状況や環境に適した活動場所の確保

○財源(主に人件費)の確保

○他機関や地域の方々との連携

問10 貴団体が活動するうえで、市からの支援として必要なことは何ですか。

○施設の継続的使用の許可、借用している施設の整備

○困ったときの相談窓口。いろいろな専門家の紹介など。

○市内の各小中学校の不登校児童の状況について情報共有

○学校(教頭・担当教諭等)との情報共有

○年々様々な特質を持った子どもが増加している。そのためには、保育士の人数を増員してほしい

○保育教諭の派遣をしてくれる。もしくは、保育教諭を職業として目指す人が増えるよう給与などを上げる。

○ファミサポにおいて、配慮を要するこどもへの支援が必要となってきたことから、そうした支援の際のファミサポの援助会員の報酬などへの補助

子ども・子育て世代への支援等について、ご意見やご提案などがあればご自由にお書きください。

《事業所A》

子育て支援というと、どうしても親支援に偏り、親の声ばかりに耳を傾けがちになるが、子ども支援、子どもの声をきく、ということ、子どもにとってどうなのかを必ず視野に入れてほしい。

それが、子どもの権利の尊重だと思う。

子どもの声は、必ずしも「言葉」で表現されない。

子どもの声を聞き取るために、単発的に「子どもの声をきく」機会をつくるだけでなく、子どもアドボカシー制度の導入やアドボケイト養成講座などを日進市で実施し、制度として、風土として、子どもの声を聴く体制をつくり、子どもの権利が尊重される街づくりにつなげてほしい。

《事業所B》

記載無

《事業所C》

○現在の社会は教育に費用がかかりすぎており、教育格差を感じる。

○子ども達の居場所が減っているため、子ども同士のコミュニティが少ないため、社会に順応する能力が育まれないのではないのでしょうか。

《事業所D》

子どもが生まれたその時から、一人の人間として尊重されるよう、親になる人たちへ生まれる前にしっかりと伝えてほしい。

保育園は児童福祉法に基づく児童福祉施設です。婦人福祉施設として利用するのではなく、子どもが心身ともに強く育ち、人と人との信頼関係を育むことができる生活を保障してあげてほしい。

日進市の保育園の保育が、子どものための保育園となるよう運営できるように、連携して取り組む仕組みができると良いと思う。

《事業所E》

新2号の春・夏・冬休みにあたる長期休暇期間の補助金の上限が上がるという保護者の声をよく聞く。

《事業所F》

放課後児童クラブや放課後子ども教室、地域の習い事等での障害児の受け入れについては、まだまだ課題も多いと感じています。「地域障害児支援体制強化事業」の中に、「インクルージョン推進員」を確保し、地域のピアノやダンス等の習い事や塾、スポーツクラブ等の事業者に対する後方支援（相談対応、研修、環境調整等）を行うという事業があるようですが、日進市においても、こうしたインクルージョン推進のための更なる取り組みを期待します。

《事業所G》

#### 【資料4】

コロナ禍を経て、社会全体に不透明感が増しているためか、子育て家庭もまたその影響を受け、こどもが安心して育つには不安定な環境にある家庭が増えていることが気になっています。

どのような支援をするかは、議論の分かれるところではあると思いますが、全てのこどもが安心して、不確実な時代を生きる力を育み、逞しく成長できる環境が整うように、多様な支援が展開されることを望んでいます。